

令和元年度 沖縄県振興審議会 第1回離島過疎地域部会議事要旨

令和元年8月20日（火）10：00～12：00

議題【第2章 沖縄振興の現状と課題】について

- 他部会の審議など、離島・過疎地域に関係する事項については、離島過疎地域振興部会に情報を提供していただきたい。
- 新たな振興計画を立てるに当たり、現状、不足している点等を把握する必要がある。
- 沖縄周辺の離島と遠隔の離島は、区別していかなければいけない。
- 離島航路の重要性を打ち出す必要がある。
- 港湾整備は、地域毎、離島毎に整理した上でないと解決策まで繋がっていかない。
- 船を安全・安定的に就航させるために、今後、船員確保が重要である。
- 振興計画では、ハードを整備してそれがどうソフトと繋がっているのか、あるいはハード・ソフトが一体になり振興しているか、分析が足りない。
- 離島・過疎地域に一番大きな課題として挙げられるのがマンパワー不足で、担い手、人材の育成こそが離島・過疎地域の発展に繋がるキーワードである。
- 島の暮らしをより便利に、より豊かにしていくことも重要である。キャッシュレスの事業とかAI運行バスなど、効果を検証しながら、よいものは他の島に展開することが、今後、非常に大事になってくる。
- 久米島の海洋深層水施設活用は、離島・過疎地の振興発展に大変有望な構想である。
- 離島の医療体制について、離島医療センターの設置など、きめ細かく離島のことをやっていくような仕組みが重要である。
- 総点検報告書（素案）は、全体的に文章が統一されていない（箇条書きになっている箇所と、しっかりと情報が書かれている箇所がある）ため、もう少し統一する必要がある。
- 離島では専門職が不足している中で、人数が少ないために成り立たないことに対して、もっと補助を充実させる必要がある。
- 乗務員だけでなく空港を担う人材など、今後の離島航空路を守る人材を育成する必要がある。
- 海ゴミの問題をどうしていくのか考える必要がある。
- オーバーツーリズムで住民の生活が脅かされている。住民の心の問題に配慮する必要がある。
- 沖縄はイメージがよい（優位性がある）。リモートワークやビジネスで長期滞在される方を集められる。
- インターネットを介して島外の方々との協力体制、課題解決をしていけるネットワークがつかれるとよい。

- 入域客数だけではなくて、中身のある（質の高い）観光客の誘致が必要である。
- 船員確保の問題について、地元が継続して雇用できるシステムを構築する必要がある。
- 港湾設備・ターミナルのバリアフリーについて考える必要がある。
- 人口減について、自然増を上回る社会減が沖縄の小規模離島の実状である。今まで以上に人口減が加速していくことを想定したほうがよい。
- 小規模離島、あるいは過疎地域の小中学校を存続することについて、離島過疎地域の切実で切迫した重要課題に位置づける必要がある。
- 離島毎にどのような観光が望ましいのか考えていく必要がある。観光客数、観光収入など、島単位の実態をおさえられないと目標が立てられない。
- 総量規制も含めて、良質な観光を求めていくべきである。同時に、バリアフリー観光やユニバーサルツーリズムといった切り口、スペシャライズした取り組みが重要である。
- 専門人材、とりわけ医療関係の人材について、島々でどのように調達するかが非常に重要である。
- 「小規模離島」は、総点検報告書（素案）に複数回記載があるため、定義しておいた方がよい。

その他

なし

以 上